

あいち病害虫情報 最新情報

平成24年11月15日
愛知県農業総合試験場
環境基盤研究部病害虫防除室

気温は低く、降水量はやや多い

名古屋地方気象台11月9日発表の1か月予報によれば、向こう1か月の気温は、平年より低い確率が50%、降水量は平年並または多い確率ともに40%です。

ムギの排水対策を徹底！

安全で品質の良いムギが求められており、赤かび病によるかび毒汚染の防止は必須です。排水不良は生育不良を招くだけでなく、赤かび病の発生を助長するので、排水対策を十分に行いましょう。また、種子伝染性病害である裸黒穂病、なまぐさ黒穂病などを防ぐためにも種子消毒をしっかりと行いましょう。

キャベツ、ハクサイの病害虫に注意！

キャベツでは、黒腐病の発生量が多い地域があります。風を伴う雨は発生を助長するので、注意しましょう。キャベツやハクサイでは、菌核病が発生する時期です。発病株は直ちに抜き取ってほ場外に持ち出し、適切に処分しましょう。なお、本病の病原菌は多くの植物に感染するので、菌核病が発生している地域では、他作物でも発生に注意しましょう。ハクサイでは、アブラムシ類の発生は平年並です。発生が見られるほ場では早めに防除しましょう。また、フェロモントラップでのオオタバコガの誘殺数が、依然として多い状況が続いています。引き続き、ほ場での発生状況に注意し防除しましょう。

果菜類の灰色かび病

果菜類では、気温が低下する今頃から灰色かび病の発生が多くなるので注意しましょう。暖房機の設定温度を低くしている場合は、積極的に換気や送風を行って、多湿にならないようにしましょう。また、発病果や発病葉は速やかに取り除いて処分しましょう。

トマト葉かび病、トマトすすかび病

トマト葉かび病、トマトすすかび病は、施設内の湿度が高くなると発生が増えるので、灰色かび病と同様に多湿にならないようにしましょう。また、なり疲れは発生を助長するので、肥培管理にも気をつけましょう。

イチゴうどんこ病、イチゴのハダニ類に注意！

イチゴうどんこ病は、多発すると防除が難しくなるので、初期防除に努めましょう。また、窒素過多は発生を助長するので、適切な肥培管理に努めましょう。

近年、ハダニ類の発生量が多い状況が続いています。ミツバチへの影響に配慮しながら、防除を徹底しましょう。天敵を利用する場合は、導入前に防除を徹底し、ハダニ類の密度を下げてから放飼しましょう。

ナス、キュウリのミナミキイロアザミウマに注意！

粘着トラップにおけるミナミキイロアザミウマの誘殺数は、平年並の状況です。ほ場での発生状況に注意し、早めに防除しましょう。

キュウリでは、キュウリ黄化えそ病の発生を確認しています。本虫が病原ウイルス(MYSV)を媒介するので、防除を徹底するとともに発病株を抜き取り、適切に処分しましょう。

問い合わせ先 愛知県農業総合試験場 環境基盤研究部 病害虫防除室
TEL 0561-62-0085 FAX 0561-63-7820